

## 5S から始める中小企業の組織活性化術

### 第1回 業種を問わない「組織活性化」の技術

#### 2枚の写真の「間」にあるもの

下の2枚の写真を見てください。随分「汚い組織」と「綺麗な組織」の写真ですね。さて、どちらの組織のほうが「優秀」で「利益」が出ているように思えますか。



タネを明かすと、上の写真は「同じ組織」の「同じ場所」のものです。ただし、時期が「2カ月」ほど違っていますが、さて、2カ月の間に「組織」の中で何が起こったのでしょうか。

時代変化が早かつグローバル化が進み、おまけに予想もしなかったような「大災害」に襲われた今、中小企業にとって最大の課題は「組織の存続と発展」になりました。「組織の存続」とは、「3年後、5年後、組織が存在しているかどうか」という意味であり、「発展」とはその時にきちんと「利益が取れているか」ということです。一見、世の中は複雑化しているように見えますが、究極の課題は極めて「シンプル」です。では、その「シンプル」な目的のために、組織は何をすればいいのでしょうか。

#### 中小企業の「可能性」

信用力や財務力、事業規模で大企業に負けているよ

うに見える中小企業にも、大企業にはない大きな武器があります。まず大手より「素早く」動くことが出来るという強みがあります。同時に、中小企業は大手とは違って「知恵」の塊です。大卒や大学院卒の人間はいないかもしれないけれど、何よりも「現場の知恵」に溢れています。「知識」ではなく「知恵」の集団です。物を作る、物を売る、サービスを提供する、地域と密着している、という点では、誰にも負けません。

しかし、その「中小企業の可能性」を存分に発揮している組織は、案外少ないのが現状です。売り上げに悩み、新商品開発に悩み、組織の一体感に悩み、経営者の多くが時に途方に暮れています。なぜ自社の持っている「可能性」を伸ばすことが出来ないのか。それは「組織を活性化する技術」が欠如しているからです。一年で「2500万円の赤字」から「5800円の黒字」へ前年2500万円の赤字を出しながら、翌年5800万円の黒字を出した組織（宮崎市）があります。「組織活性化の技術」を学び、実践して「減収増益」を果たした組織（伊万里市）があります。それらの組織は、「手順」を踏んで、「全社一丸」となり、組織を「変革」し、実績を残しました。実は、組織の中に「組織活性化技術」をきちんと落とし込んでやると、組織は素早く変化出来るのです。その変化はまったく業種を問いません。弊社のクライアントは、製造系、販売系、流通系、サービス系と多岐にわたっています。事業規模も、年商1500万円から70億円まで幅があります。つまり、「業種を問わない組織活性化のセオリー」を伝えています。キーワードは「認識～5S～限界利益」

組織を変革するために重要なことは「手順」と「要素」です。多くの組織が、その「手順」を間違え、「思いつき」で取りかかってしまい、組織を傷つけたり、成長の芽を摘み取ってしまったりしています。

「5S活動」とは、「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」という5つの要素を組織で展開することですが、この活動は「手順」を間違えなければ、組織の「体質」を変え、同時に「利益」まで変えてしまいます。「片付けたくらいで、会社が儲かるのか？」と思われるかもしれませんが、「5S活動」は単なる片付けではありません。「組織活性化の技術」です。そして「限界利益」という新しい利益概念が組織を大きく変えます。